

都市再生整備計画(第5回変更)

ちくまがわ
千曲川リバーサイド地区

ながの 長野県 うえだし 上田市

平成25年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	長野県	市町村名	うへだし 上田市	地区名	ちくまがわ 千曲川リバーサイド地区	面積	585 ha
計画期間	平成	20	年度	～	平成	24	年度
交付期間	平成	20	年度	～	平成	24	年度

目標 交流・文化・憩いを基本に新生上田市のシンボルとなる拠点整備を行う。 交流文化施設を中心とする周辺道路等の基盤整備 水害に強く、安全なまちづくり 公共交通機関の支援による安全性と快適性の向上
--

目標設定の根拠 まちづくりの経緯及び現況 <ul style="list-style-type: none"> ・当地区の一部には、昭和24年から操業をしていた日本たばこ産業株式会社上田工場(当時:専売公社)があり、一時は従業員が800人以上いるなど、他の工場も含めた千曲川右岸沿いの工業地域として、活力ある市街地の一角を形成していた。 ・また、日本たばこ産業株式会社上田工場の従業員の一部は同敷地内の社員住宅に住居しており、貴重な市街地内の定住者であった。 ・近年になり、世界的競争力を高めるため、コスト縮減・経営の効率化など工業を取り巻く状況は厳しく変化し、市街地内にある大規模工場の移転・縮小・撤退が目立ち始めている。 ・日本たばこ産業については、平成17年3月を持って操業停止となり、中心市街地に約19haもの広大な遊休地ができてしまった。 ・このことをはじめ、当地区は中心市街地内の工業地域であったが、社会経済状況の流れの中で大幅な土地利用の転換を迫られている。 ・一方、既存の中心商店街の商品販売額は減少傾向に歯止めがかからず、中心市街地の賑わい・活力・求心力の低下が著しい状況となっている。 ・既存の中心商店街を含む地域については、まちづくり交付金「上田城下町地区」によって、街路網整備をはじめとした都市基盤整備を柱に、各種活性化対策をとっているところである。 ・「上田城下町地区」によるまちづくり効果をさらに高め、東信地方の核としての魅力づくりが必要不可欠なものとして求められている。 ・日本たばこ産業(株)上田工場跡地では、民間を主体とした土地区画整理事業が予定されており、都市基盤の再構築がされようとしている。 ・民間の活力を活かしながら、公共施設の整備、市民の憩いの場の整備、計画されている道路網の整備を集中して実施することにより、市民の多様なニーズに応え得る新たなまちづくりを目指している。 ・市民アンケートの結果では、文化会館的な公共施設を望む声が、他を圧倒して高くなっている。 ・H21年8月に報告された「交流・文化施設等整備検討委員会」からの検討結果を基に、交流・文化施設等整備計画を策定し、まちづくり交付金「上田城下町地区(二期)」において整備をする予定である。 ・上田城跡公園や千曲川といった上田市を象徴する場所に近接していることから、上田市に不足している文化や自然を身近に感じられる広々とした市民の憩いの場も求められている。
--

課題 <ul style="list-style-type: none"> ・当地区は交通結節点の上田駅には至近の距離にあるものの、千曲川と新幹線・しなの鉄道に囲まれているため、広域的アクセス道路は、狭幅員の堤防道路及び(主)長野上田線に限られている。 ・幹線道路の市道秋和踏入線に接続する道路の整備には、新幹線・しなの鉄道を横断する必要がある。 ・洪水ハザードマップによる浸水区域(最大2.0～5.0mの浸水)となっている天神、常磐城、塩尻地域における水害に対する備えを強化する必要がある。 ・鉄道の安全性の確保及び利用促進を図るため、安全で継続的な運行維持に対する支援を行なう必要がある。
--

将来ビジョン(中長期) <ul style="list-style-type: none"> ・上田市の中心市街地の拠点として、中心市街地全体のポテンシャルの向上に寄与する。 ・道路・公園をはじめ、公共や民間の様々な施設が整備されることにより、中心市街地全体として賑わいが生まれ、活性化が図られる。 ・子どもから大人、高齢者まで誰でもが安心して、かつ楽しみながら利用できるよう「ゆとりある空間」、「バリアフリー対応」、「緑(環境)の充実」等に十分配慮された中心市街地の創出。 ・千曲川の眺めや山並みの眺望などに恵まれた空間形成により、様々な人の交流が生まれ、また、文化・芸術の発信地として地域を牽引していく。
--

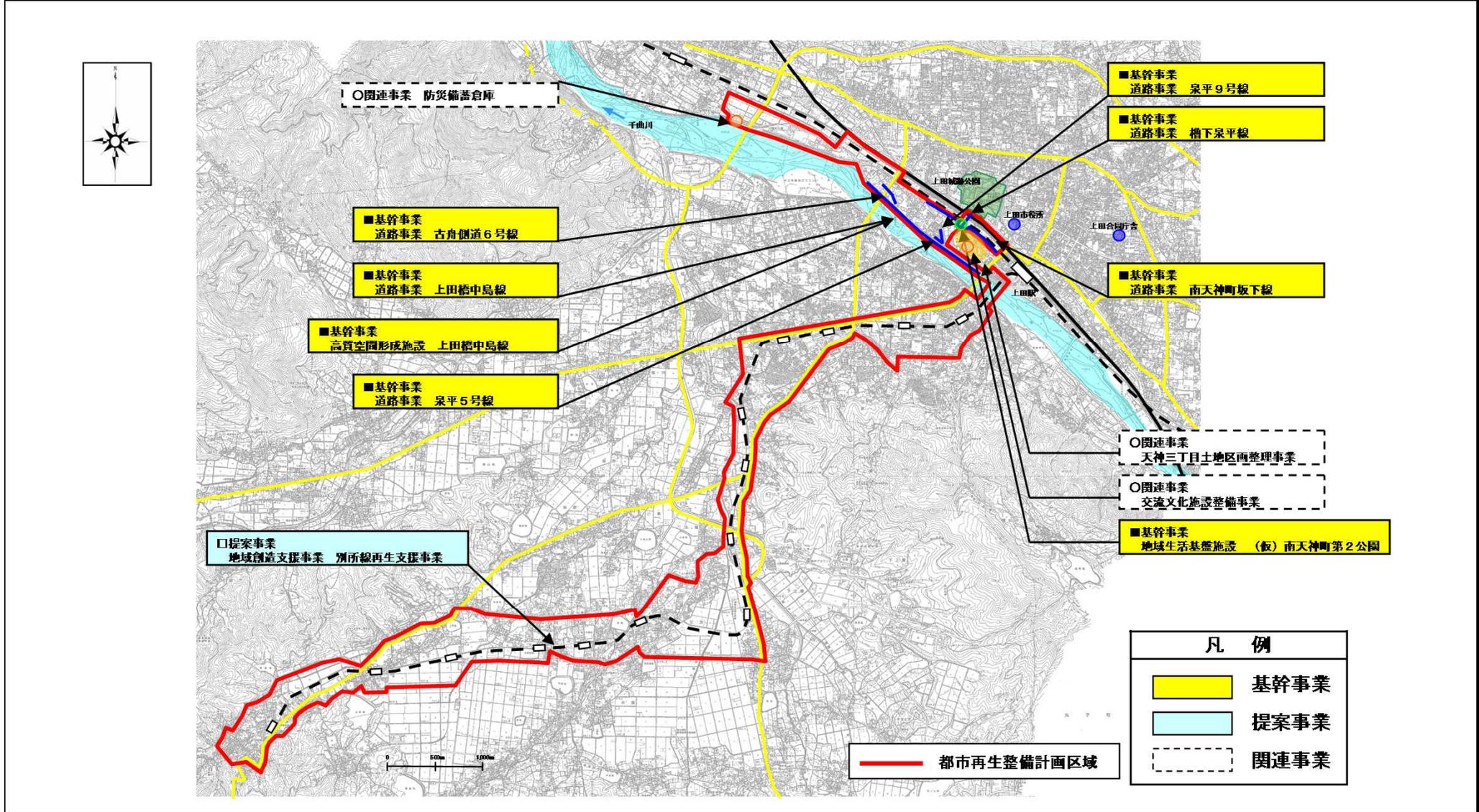
目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値		
				基準年度	目標年度		
(主)長野上田線の歩行者数	人/日	道路交通センサスによる12時間平日交通量	様々な施設の整備により、中心市街地の拠点となる賑わいを生み出す。	227	H17年度	340	H24年度
区域内の歩道整備率	%	区域内の幹線の市道(幅員6m以上)の歩道整備率	車道と分離したバリアフリー化した歩道を整備することにより、安全な歩行者空間を確保する。	11	H17年度	78	H24年度
鉄道事故件数	件/5年	上田電鉄別所線の5年間の事故件数	安全対策関連の設備投資や基盤整備による安全性の確保を図り、鉄道事故件数を減少する。	6	H19年度	4	H24年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>交流文化施設を中心とする「周辺道路等の基盤整備」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流・文化施設、大型商業施設、大規模住宅地等の整備に対応した周辺道路整備を行なう。 ・上下30分交通圏確立のための道路を整備する。 ・駅環状道路へのアクセスを容易にし、円滑な交通を高める道路整備 ・狭小で危険な生活道路を拡幅・改修し安全性の向上を図る道路整備 ・防災上危険度の高い行き止まり道路を解消し、万が一の時に対応できる都市基盤を整備する。 ・交流・文化施設、大型商業施設、大規模住宅地等の集積する地区の西北の玄関口に、周辺住民や施設利用者の憩いの空間を創出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市道上田橋中島線(基幹事業/道路) ・市道櫓下泉平線(基幹事業/道路) ・市道泉平9号線(基幹事業/道路) ・市道南天神町坂下線(基幹事業/道路) ・市道泉平5号線(基幹事業/道路) ・市道古舟側道6号線(基幹事業/道路) ・(仮)南天神町第2公園(基幹事業/地域生活基盤施設) ・市道上田橋中島線(基幹事業/高質空間形成施設) ・交流文化施設事業(関連事業)
<p>水害に強く、「安全なまちづくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千曲川右岸での緊急災害に対する防災拠点整備を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災備蓄倉庫(関連事業)
<p>公共交通機関の支援による「安全性と快適性の向上」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄道の安全性、快適性を高めるための設備投資に対して助成を行なう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・別所線再生支援事業(提案事業/地域創造支援事業)
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 中心市街地の求心力を高め、活力創出を図るための都市基盤整備 天神三丁目土地区画整理事業(関連事業) <ul style="list-style-type: none"> ・大規模工場跡地を含む一体的市街地整備(民間主体) ・公共地区、住宅地区、商業地区、複合用途地区の整備 交流文化施設整備事業(関連事業:都市再生整備計画事業(上田城下町地区(二期))) 	

千曲川リバーサイド地区(長野県上田市) 整備方針概要図

目標	交流・文化・憩いを基本に、新生上田市のシンボルとなる拠点整備を行う。	代表的な指標	(主)長野上田線の歩行者数 (人/日)	227 (17年度)	→	340 (24年度)
			区域内の歩道整備率 (%)	11 (17年度)	→	78 (24年度)



まちづくり交付金の客観的評価基準の確認シート

都道府県名	市町村名	地区名
長野県	上田市	千曲川リバーサイド地区

I. 目標の妥当性

①都市再生基本方針との適合等	チェック欄
1) まちづくりの目標が都市再生基本方針と適合している。 (該当するものに○) ①. 中心市街地活性化 2. 防災 3. 少子高齢化 4. 人口定着 ⑤. 観光・交流 6. アメニティ ⑦. 交通利便性 8. 都市活力 9. 地域コミュニティ 10. その他	○
2) 上位計画等と整合性が確保されている。 (該当するものに○) ①. 市町村総合計画 2. 都道府県長期計画 3. 都市再生緊急整備地域 4. 構造改革特別区域 5. 地域再生計画 6. 全国都市再生モデル調査 7. 被災市街地 ⑧. 中心市街地活性化計画 9. その他(地域防災計画)	○
②地域の課題への対応	チェック欄
1) 地域の課題を踏まえてまちづくりの目標を設定している。	○
2) まちづくりの必要性という観点から地区の位置付けが高い。	○

II. 計画の効果・効率性

③目標と事業内容の整合性等	チェック欄
1) 目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	○
2) 指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
3) 目標及び事業内容と計画区域との整合性が確保されている。	○
4) 指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	○
5) 地域資源の活用やハードとソフトの連携等を図る計画である。	○
④事業の効果	チェック欄
1) 十分な事業効果が確認されている	○
2) 事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	○

III. 計画の実現可能性

⑤地元の熱意	チェック欄
1) まちづくりに向けた機運がある。	○
2) 住民・民間事業者等と協力して計画を策定している。	○
3) 継続的なまちづくりの展開が見込まれる。	○
⑦円滑な事業執行の環境	チェック欄
1) 計画の具体性など、事業の熟度が高い。	○
2) 交付期間中の計画管理（モニタリング）を実施する予定である。	○
3) 計画について住民等との間で合意が形成されている。	○

【記入要領】

- ・都市再生整備計画の記載内容が、確認シートの各項目に該当する場合は、チェック欄に○を記入する。
- ・(該当するものに○)の項目は、都市再生整備計画の記載内容が該当する項目の番号を○で囲む。